

学校名	寿台養護学校	
ホームページURL	生徒数 8 名	
(1) テーマ 「プラザ寿に向けて準備をしよう」  テーマの分類( ) 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください  学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他( 高等部全学年 ) 該当学年 年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい ・病棟・学校内での生活が多く、さまざまな体験が不足しがちであり人との付き合い方に課題を持つ生徒たちに、販売とそのための製品作りを通して、友人やお客さんと関わったり責任感を持って活動したり自分の考えを述べたりすることができるようになる。		
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ・昨年度の製品を参考にしつつ、自分の製作・販売したいものを決め出す。同じような製品を作ろうと考えている友達と協力して製作をする。結果的にグループは、3つに分かれた。グループによっては受注販売に力を入れた。販売当日に向けての店の飾りなども自分たちで工夫し計画した。 儲けの一部を利用して、慰労会を行ったり生徒会費の一部として備品購入に当てた。 時数( 29 )		
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ・高等部全職員7名のうち、4名で運営をした。グループでの製作のときには、各班に職員が分かれ分担した。販売は、文化祭のときに実施し、先生方、病棟の職員はもとより、地域の方々にもたくさん購入していただいた。		
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ・日課上週2時間が位置付けられている。その他に、文化祭前数週間は特別に時間を設定し準備や製作を行った。		
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・評価の観点としては、「自分で作りたい製品を考え、取り組むことができたか」「お客さんを意識し、工夫をしたりデザインをしたりすることができたか」「友達と協力しながら製品作りを進めることができたか」などである。自信のなさ、体験不足などもあるので、繰り返しの体験が必要になる。		
(8) 成果と課題 ・本校の生徒の実態を考えたときに、まったく新しいことに取り組むのではなく、見通しがある程度もてるような、すでに経験があることをベースに展開していくことがよさそうである。また、単元は短すぎないようにし、じっくりと取り組める長さとする。病弱であり欠席なども多いことを踏まえ、生徒個々のペースで活動できるようにする必要がある。 チームティーチングのための打ち合わせの時間の確保が難しいこと、重複障害の生徒を含めた単元展開のあり方などが課題となる。		

テーマの分類 横断的・総合的な課題( -ア 国際理解 -イ 情報 -ウ 環境  
-エ 福祉・健康 -オ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や  
学校の特色に応じた課題